

◆ *Furusato Obara Club*

Take Free [0円]

おばらのじかん

— 第4号 —
2015 Spring

巻頭
特集

おばらの子育て『こども園編』 知っておきたい！4つのポイント

[こども園の先生に伺った「小原の魅力」]

[先輩ママの小原の子育て]

家族でハッピー。里山で暮らさ

[ババ友・仲間を作るなら～消防団のオススメ]

[おかえりなさいオバラっ子]

[小原の風習]

[マンガイカくんキンちゃんの小原日記]

[小原いろいろ情報]



おばちゅう卒集まれ!
www.facebook.com/obachuu

巻頭
特集

おばらの子育て

知ってきおきたい4つのポイント

歌舞伎などの伝統文化や和紙を代表とする芸術に恵まれた「おばら」里山の自然に囲まれながら、心を豊かにする子育てがここにあります



知っておきたい

Point 1

幼児は、ほぼスムーズな入園ができます

現在小原地区には、大草、北菜、道慈の3つのこども園があります。子どもの数自体が少ないので、幼児はスムーズな入園が可能です。

ただし、延長保育、早朝保育、乳児クラスに関しては、大草こども園のみで対応します。状況が違うので注意が必要です。

居住地域や通勤等を考慮して、どの園を利用するか調べておこう！



市役所に入園申し込み日などの確認を！

途中入園より1次申込のほうが入園できる可能性もUP！
通園に関しては、市のファミリーサポートの登録と利用で困ったときはより安心できるかも。
※子どもが成長して小学生になったら学童も利用できるよ。

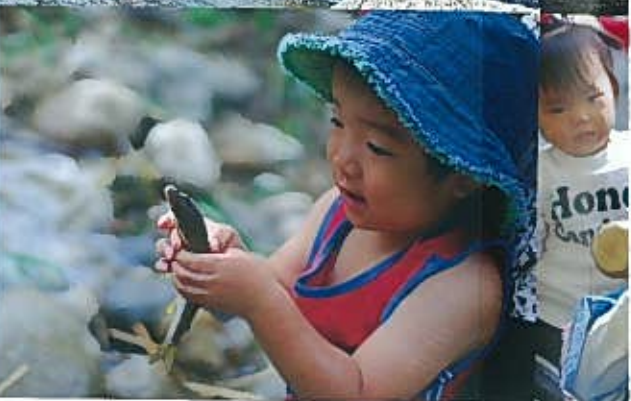
知っておきたい

Point 2

自動車は必須アイテム

歩いて行くことができる距離でなければ、車での送迎が主となる通園。生活面でも豊田市街への路線バス、小原地区の中を格安料金で予約制で利用できるおばら桜バスがあるが、運行状況もあり、やはり自家用車がないと厳しいのが現状。子どもの習い事は、保護者の送迎が必須となる。親の負担は大きい。子どもがサボって休むことがないので良いという意見も……





お母さんの声

同学年が1クラスではなく、他学年との混合クラス。上の学年が下の子の面倒をみたり、下の学年の子が上の学年の子に憧れたり、いつも一緒にいることで、子どもたちの心の成長には良い面も沢山。卒園式には送り出す園児が、大好きな年長さんとの別れが寂しくて泣いたりする場面も。親も感動してしまいます。



道慈こども園と北栄こども園は一人の園長先生が二つの園を担当している。学年によっては、一人しかいない場合もあるので、他園へ通うことも。今後、園児数によって、大草こども園も3学年1クラスになる年が増えるかも。また、本城小ではH28年度から複式学級を導入する学年

H26年度のクラス編成

こども園	年小さん	年中さん	年上さん
道慈	← 1クラス →		
北栄	← 1クラス →		
大草	1クラス	← 1クラス →	

知っておきたい

3歳〜5歳園児複式クラス

Point 3

参考 伝統文化 小原和紙に触れる

小学校の授業では、準備から自分たちで行う本格的な和紙制作が取り入れられており、伝統工芸に関する取り組みも盛んです。



小原地区の伝統工芸である和紙に触れる機会がもつけられています。ことも園では和紙を使った制作体験の取り組みや、老人クラブさんとの花の植え替え交流、桃の節句のおこしものづくり体験等、地元の方との交流による小原ならではの保育が魅力。

知っておきたい

Point 4

地域の特色を生かした保育





こども園の先生に伺った「小原の魅力」

H.Y こども園だよりを読ませていただきましたー掲載のコラム、保護者の方に色々なアンケートをとられていて、とても興味深いですね。掲載のきっかけはどんなことだったのでしょうか？

先生 そうですね。この四季桜や和紙で各地から人がやってくる小原地区の魅力をこの地で子育てする人にもっと知ってもらえたらーと思い、今月は皆さんにお話を伺ってみました。井戸端会議みたいに話が盛り上がりすぎて小原の良い所を沢山聞くことができました。

H.Y なるほど、「近所皆知り合いで、周囲全員で子どもを育てるみたいな雰囲気があるて助かる部分もー」なんていう意見もあるようですね。

先生 そうですね。沢山の人のふれあいを大切に、地域の宝である子ども達を育て育むことはとても重要な要素の一つと考えています。地域の人の一体感が、子育てにも生かされているのではないのでしょうか。

H.Y 確かに園の行事や草刈作業も老人会の方をはじめ、多くの方が携わってくた

さっていますね。

先生 ええ、小原の方の人の温かさ、地域性も素敵などころだと思えます。それに車があれば、それほど買い物に苦労はしないことや、和紙、歌舞伎などの芸術が身近で、なによりも手に触れる事のできる自然が目の前にあるということも魅力なところだという意見が聞かれました。

H.Y 自然、伝統文化、人の温かさ、それによつて生まれる子育ての環境。この3点が子育ての環境という観点からみた「小原の魅力」ということでしょか。

先生 地元で子育てをされる方はきっと、「育つた土地の温かさ」を覚えているのでしょか。

H.Y 育つた土地の温かさー。小原もいつか帰りたいなる場所でありたいですね。私もお話を伺って、小原の魅力を再発見させていただきました。今日はお忙しい中、有難うございました。

先生 有難うございました。

H.Y



パパ友・仲間を作るなら～ 消防団のオススメ

すべては
愛する人たちを
守るため



消防団とはなに？

消防組織法に基づいて市町村に設けられている消防機関。「自らの郷土は自ら守る」という郷土愛護精神にて、日常は自分の仕事を持ちながら、非常時には消防本部、消防署と連携して消防活動をしています。消防団員の身分は、特別職(非常勤)の地方公務員です。

消防団では何をやるの？

消防団の任務は、火災風水害等の災害から地域を守ることです。火災消火活動の他に、山林や河川等での遭難者捜索なども行います。通常時は、防火活動や機械器具、消火栓等の点検などを行ったり、ポンプ操法等の訓練により技術力や団結力を高めています。

T M

先輩ママの小原の子育て



とびら開けると香ばしいパンの香りと共に賑やかな笑い声。ここは市場町にある「えりママのパン屋さん」。今回は、このお店の店主「酒井明美さん」に夢を叶えるまでのエピソードや小原くらしのゴツをうかがいました。

明美さんは、鹿児島県種子ヶ島出身で高校卒業後看護師を目指して愛知県へ。小原のご主人と知り合い、結婚と同時に市場町に住んで28年。現在、ご主人とご主人の「両親」そして2人のお子さんとの6人家族。小原の方々が頼りにしている「乙ヶ林診療所」で看護師を勤めるかたわら、自宅近くのお店で「えりママのパン屋さん」を開いて2年半になります。最近では、小原の軽トラ市や石畳の朝市などにも出店されている、明るく頼もしい先輩ママです。

小原に住み始めたころ、どんな感じでしたか？

近所に同年代の話せる人がいなくて家にこもりつきりて不安だった。仕事を始めて外へ

出るようになり、子どもが産まれてからは、友だちもできて不安な気持ちが減って気が楽になった。



そもそも、パン屋さんを始めようと思ったきっかけは？

自分自身、小さい時から病気がちで体が弱く、常々健康についていろいろ考えていた。結婚8年目にしてやっと恵まれた娘（英里さん）の出産を機に、「この子を元気に育てたい」「子どもには安心して美味しいものを食べさせたい」という気持ちから、生後十カ月の娘を連れてパン教室に通い始めたり、食野菜作りなどについても興味を持ち学んだ。息子が小学校へ入ってからは、小学校のバザーに毎年パンを出したり、周りでお世話になっている人にあげたりしていた。「美味しい美味しい」教えてほしい」と言われ、自宅を教室を開いているうちに、いつかパン教室をやりたいな」と思い、ゴツゴツ道具も揃えてきた。教室を開くなら、きちんと資格も取ろうと思っ



パン屋を始めていかがですか？

パンを食べた友人が、小原以外の朝市への出店を勧めてくれて、また出合いが広がって広がって。お店を手伝ってくれるお客さんも出る程で、人とながらる事が楽しくてありがたい。パン教室の中でも、子育てや近所づきあい

なっている。

パンの美味しさはもちろん、酒井さんの底抜けに明るいキヤラ、そして人生経験や人柄に、みんな「また会いたい」「またパン買いに来たい」と思うんですよね、きっと。

小原で暮らして28年、小原くらしの魅力はどこですか？

「豊かな自然」「いろんな年代の人からいろんな知恵がもらえる」「優しく穏やかな人々の中で安心できる場所」とことかな。ただ、初めはお互い知らない同士だし習慣も違うので、なかなか慣れるまでに時間がかかるけど、どっぷり浸かるとだんだん見えてくる。小原くらしのゴツは、「とにかく歩外へ出て人とつながりを持つこと」とだと思っ。仕事でもいいし、子どものつながりでもいい。人とのつながりの中で、新しい自分発見！小原の良さ発見！ができるのでは？

「また来てね！待ってるよ！」明美さんの元気な声と焼きたてのパンに、別れを告げて、また酒井さんに会いに行きたくなった編集員でした。



「消」 団員ボイス

第6方面隊第2分団分団長 加藤秀文

私が小原に戻り10年が経ちました。戻ると同時に近所の同級生の勧めで消防団員となりました。今回、消防団を改めて振り返ってみました。火災消火活動、水難事故等の緊急出動や小型ポンプ操法大会出場、規律訓練、地元では地区の祭り整備、年末夜警など年間を通してさまざまな消防活動をしてきました。どの活動においても消防団活動は地元の方々との距離を縮める事が出来ましたし、自分自身社会人としてスキルを向上する事が出来る素晴らしい組織と思っています。



第6方面隊第2分団班長 左右木健太

僕が消防団に入ったきっかけは、地元の先輩から優しく気軽に声をかけられ、歓迎して頂いたからです。当初は、消防団の活動を何も知らず、団員の方も自分より年上で、顔も知らない方はかりだったので、皆さんと仲良くやっついていけるか、役に立てるのか、続けられるのか不安でいっぱいでした。しかし、実際に入団してみると、周りの皆さんは本当に優しく、いつも仲良くしてくれています。今では、団員の皆さんと一緒に活動することがとても楽しく、かけがえのない仲間をつくることができました。また、消防活動は防災活動はもちろん、祭りの警備や高齢者の住む家へ火災報知器の設置など、地元へ貢献するものが多く、とてもやりがいを感じています。こうした活動を通して、団員の方はもちろん、今までも顔も知らなかった地元の方からも、出会う度に声をかけて貰えるようになり、地域の交流がとても楽しくなりました。これからも積極的に活動し、たくさんの方々や仲良くなっしていきたいと思っいます。



「ターン・リターン」された方も頑張っ活動してあります！共に小原地区を守りましょう！





小原の生活は確かにお役や消防団の活動が忙しいこともあるが、街で暇を持て余しているより、昔からの仲間が近くにいて、活動を通して新しく出会える人達も多く、気分的に楽しい...とのこと。あゆみさんも豊田から友人が遊びに来てくれるようになったし、なにより実家が近いのがある。これからはいろいろな教えてもらえると嬉しそうだった。街中の生活でやれなかったことを思い切りやりたい、小原のいいところは、なんかしらで人が繋がっている安心感だと言う。小原を離れている友人達には「やっぱり地元がいいね、ばん楽だよ」と言っておきたい...とのメッセージ。

MT

「おかえりなさい」は夫婦ともに小原出身の今井信之さん、あゆみさん。ふたりは小原中学の同級生で共に28歳。2歳になる長女の杏夏ちゃんと、0歳の長男拓真君の4人家族。昨年の十二月、実家の土地に建てた新居の完成とともに豊田の街中で3年間暮らしたアパートを引き払い引越して来た。

新しい新居は南側二面がガラス戸、床は全て木のフローリング、赤々と燃える暖炉の火で階の広がりリビングはセーターを脱ぎたくなくなるくらいに暖かい。まだ入居して2ヶ月くらいなのでやるのが沢山あり落ち着くところまではいってない、とのことだが家族の空気はホッと和んでいて、新生活を楽しんでいるようだ。

街でのアパート生活は上の階、隣りに気を使うことが多く、やりたいことが出来ない不自由さを感じていたと言う。夏にはビニールプールを狭い風呂場に置き子供の水遊びをさせていたり、また信之さんは好きなバイクをいじったり、車を洗車することも出来なかった。一暇はあっても何も出来ないのが街の生活だ...という話は納得がいく。あゆみさんも買い物に行くのが便利なくらいで、空気も悪いし街の方がいいと思うことは多くない...と言う。そんな街暮らしの中で「上の子が保育園に上がるまでに家を建てて小原に戻る」と決心したとのことだ。



おかえりなさいオバラっ子
やっぱり地元がいいね「楽」だよ...

大きな声で呼びおひなさんを見せたらうと、家の人がお菓子をくれるという風習。地元の幼児から小学生までの子どもはみんなで各地の家を訪ね歩き、大きな袋下げて地区の家をまわり終える頃にはその袋はたくさんのお菓子でパンパン!。地元のおばちゃんたちも「大きくなってね」と近所付き合いのしつかり残る、小原ならではの光景です。

T.S

小原の風習
おがんどうちひな祭り

小原のひな祭りは旧暦4月3日に行われ、昔からの独特なひな祭りの風習「おがんどうち」があります。

「おがんどうち」とは、地元の子どもたちが地区の家々を訪ね、玄関先で「おひなさん見せてー!」と

おばら地区の物件を探すなら!

豊田市 空き家バンク 検索

www.city.toyota.aichi.jp/akiya/

小原の情報ページ 以外人もOK!
「おばちゅう卒」是非登録してね!
www.facebook.com/obachuu

【5月31日五月公演】

小原交流館で五月公演が開催されます。小原歌舞伎の保存・伝承に励む保存会が、日頃の練習の成果を披露する場とっています。役者も随時募集しています。090-4859-1199

おばらイベント

【4月5日13時人形劇開くーおびつくり箱】

欽ちゃんの仮装大賞で優勝し、子供はもちろん大人も楽しめる、その芸術性も高く評価されている「ぐるーおびつくり箱」が大坂町のコレカラ商店419製作所にてやるよ。090-2572-0877

小原白亭感 編集後記

今回のテーマはおばらの子育て。男の自分は、知らないふりをして過ごしてきた面を多方面から見る事が出来たことに感謝。少し反省しつつ、家内にも有難うと心につぶやいてペンを置く。

H.Y(今号編集長)

私には3人の娘が居ます、小原での子育ては市街地との違いに驚きと戸惑いがあるかも知れませんが、少人数だからこそ良い所も沢山あります。小原をどう思うと中学生の娘に聞くと、「小原にずっと居たい」と言いました。その言葉だけで十分、小原での子育ての良さが伝わらませんか?

T.M

おばらの子育てで特集を組みました。少子化など課題があるものの、田んぼや畑、自然に触れ育つ、おばらの子はすすく、まっすぐ寛大に育つ気がします。ご近所さん、お爺さんお婆さんとふれあひが多い小原は優しさを育むと思います。

S.K